

2021年卒
Vol. 1

10月1日時点の就職意識調査

キャリアス就活2021 学生モニター調査結果 (2019年10月)

「3月採用広報開始、6月選考解禁」スケジュールも5年目を迎える2021年卒者の就職戦線。引き続き売り手市場が予想されているが、2021卒学生はどのような特徴が見られるだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、10月時点での就職意識や就活準備状況などを尋ねた。

1. インターンシップの参加状況

○1日以内のプログラムへの参加が前年調査より増加 (75.0%→82.9%)

2. インターンシップに参加してよかったこと

○「興味のある業界について知識や理解が深まった」が約8割で突出

3. インターンシップの情報源

○「就職情報サイト」が最多 (93.7%)。「就活準備イベント」が前年より増加

4. インターンシップ参加による影響

○事前選考に落選した企業は「本エントリーをためらう、やめる」25.1%

5. 今後のインターンシップ参加予定

○9割強が参加意向あり。1日型への希望者が8割強 (85.0%)。希望時期は「12月」が最多

6. 就活準備イベントへの参加

○就活準備イベントへの参加経験者は8割強 (84.3%)。参加回数は平均3.5回

7. 現時点の志望業界

○志望業界が「明確に決まっている」19.2%、「なんとなく決まっている」48.0%

○1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「インターネットサービス」。IT業界が上位に

8. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

○「業界トップの企業」18.5%、「大手企業」38.2%。大手狙いの学生が過半数

9. 業界研究・企業研究の予定時期

○業界研究は11月までがピーク、企業研究は12月がピーク。ともに前年より早期化

10. 就職活動への不安

○「とても不安」「やや不安」の合計が約9割 (89.9%)。女子は「とても不安」が多い

調査概要

調査対象 : 2021年3月に卒業予定の大学3年生 (理系は大学院修士課程1年生含む)

回答者数 : 1,031人 (文系男子325人、文系女子339人、理系男子245人、理系女子122人)

調査方法 : インターネット調査法

調査期間 : 2019年10月1日~10日

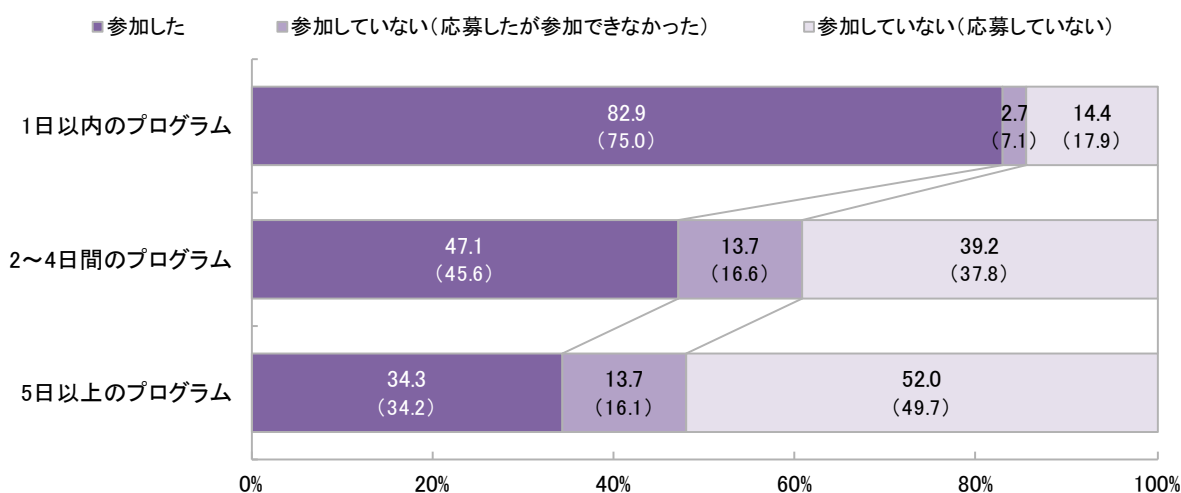
サンプリング : キャリタス就活2021学生モニター (2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. インターンシップの参加状況

10月1日時点でのインターンシップの参加状況を、実施日数別に尋ねた。「1日以内のプログラム」への参加経験を持つ学生は、前年同期調査より7.9ポイント増加し、8割超(82.9%)に上る。夏季インターンシップを実施する企業が増加したことで、学生の経験率もさらに上昇した。複数日程のものでは、「応募したが参加できなかった」が、それぞれ13.7%程度あり、事前選考にもれるなどで、希望者の2割強は参加できていない。参加社数の平均を見ても、「1日以内のプログラム」が4.1社と、複数日程のもの2倍以上に上り、ショートプログラムへの参加が中心であることがわかる。

なお、参加時期は「8月」(84.2%)「9月」(74.9%)に集中している。「2019年3月以前」が1割に上り(10.6%)、大学1、2年次からインターンシップを経験する学生も一定数見られる。

<インターンシップ参加状況>



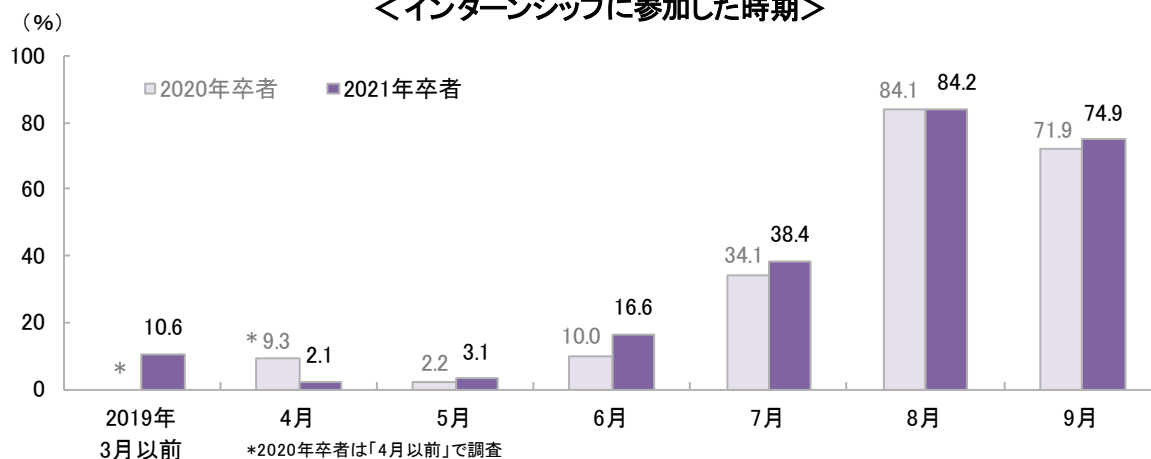
※()内は2018年10月調査の数値

<インターンシップ参加社数/平均>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	4.1	3.6	4.7	4.1	3.6	3.2
2~4日間のプログラム	1.8	1.7	2.1	1.9	1.6	1.4
5日以上プログラム	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3

※それぞれの参加者が分母

<インターンシップに参加した時期>

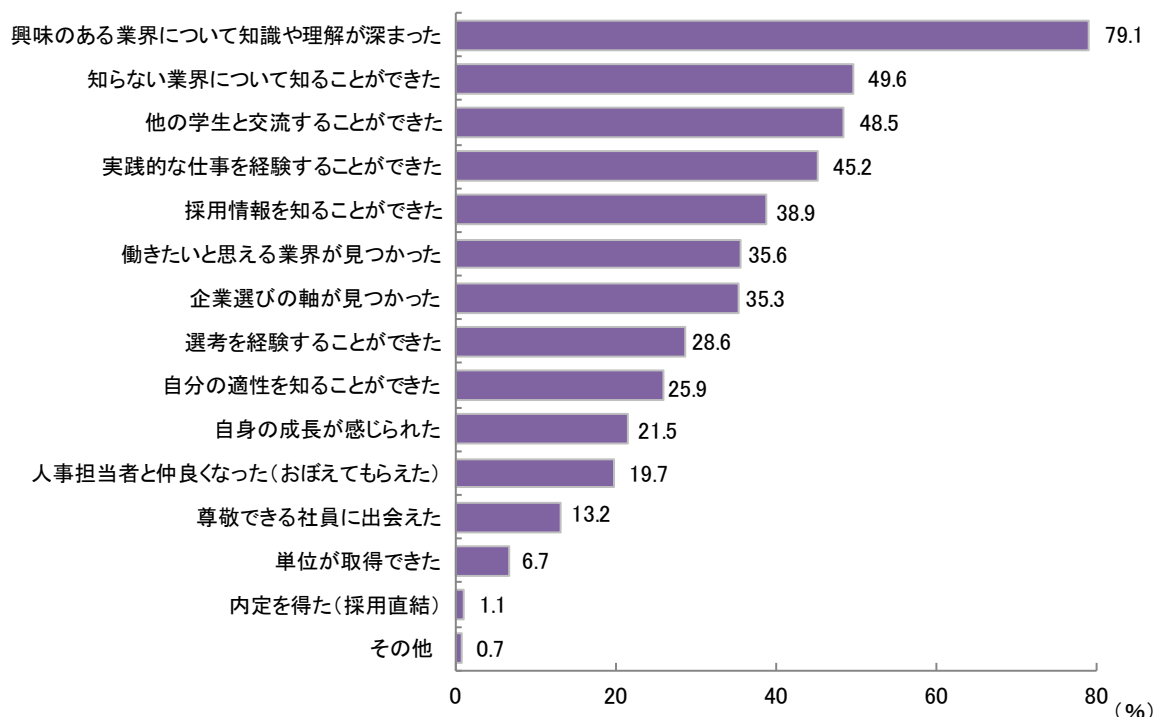


※参加経験者が分母

2. インターンシップに参加してよかったこと

インターンシップ参加経験のある学生に、インターンシップに参加してよかったことを尋ねた。最も多いのは「興味のある業界について知識や理解が深まった」で約 8 割と突出している (79.1%)。「知らない業界について知ることができた」(49.6%)、「実践的な仕事を体験することができた」(45.2%)などが上位に挙がり、プログラムを通じて、企業や仕事への理解を深めた学生が多いことが読み取れる。また「他の学生と交流することができた」も半数近くの学生が選び (48.5%)、グループワークなどを通じて他の参加学生から刺激を得た学生も多かったようだ。

<インターンシップに参加してよかったこと>



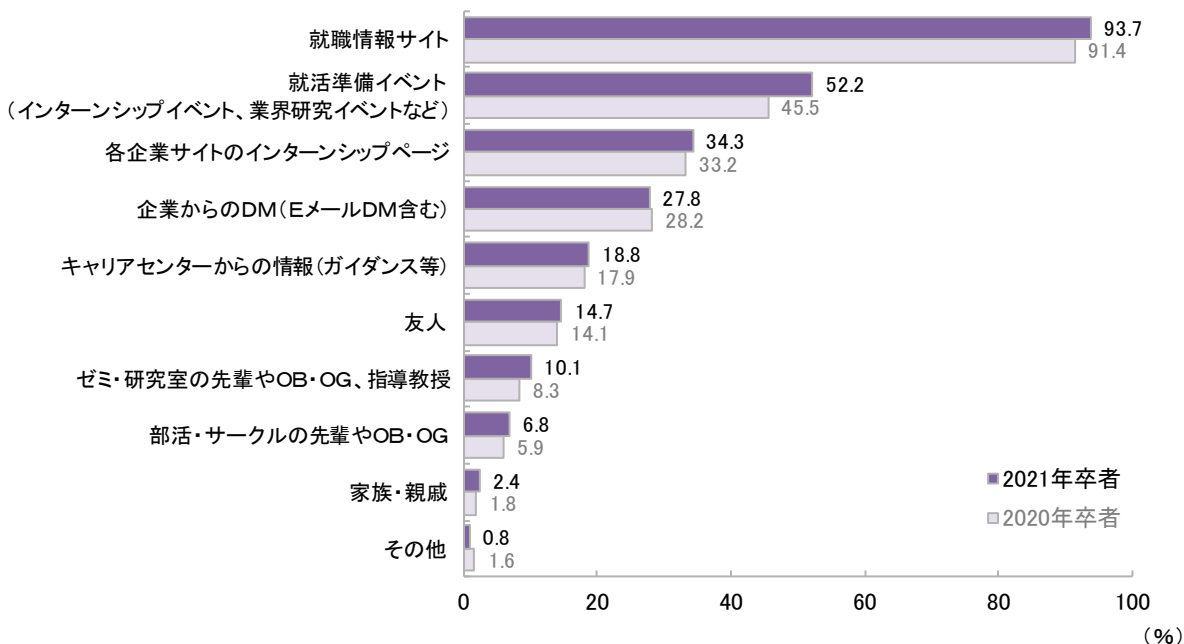
■よい印象をもったプログラム

- 3 日間のプログラムの中で企業の歴史や商品、事業開発など幅広い経験ができた。 <文系男子>
- オフィス見学ツアーで、働くイメージが持てた。 <文系女子>
- 実際に販売している商品に触れ、グループワークを行なったことにより、企業の取り組みや理念を理解することができた。 <理系女子>
- グループワークが徐々に難しい課題へシフトしていき、自分の実力を周りの人と比べられた。 <理系男子>
- あらかじめ動画視聴の課題があり、企業の事業や製品等についてある程度の知識を得た状態でインターンシップを行ったため、短時間で効率よくグループワーク等を行えた。 <文系男子>
- 業務内容だけでなく、顧客との接し方といった社会人としてのマナーも同時に教えてくれた。 <理系男子>
- 実際の社員が行う業務内容を一緒に体験したことで、将来なりたい人物像などが決まった。 <文系男子>
- メンターも真剣に向き合ってくれたため自分の成長に繋がった。 <理系男子>
- 人事部の方が、参加学生一人一人の情報をしっかり把握していたことが嬉しかった。 <文系女子>
- 設備見学や、グループワークに対して社員の方がしっかりついてくれ、フィードバックに関してとても的確であったから。 <理系女子>
- 同じ業界を志望している優秀な仲間に出会えた。 <文系男子>

3. インターンシップの情報源

インターンシップの応募経験のある学生に、応募したインターンシップを知ったきっかけを尋ねたところ、「就職情報サイト」が9割超と突出していた(93.7%)。次いで、「就活準備イベント」(52.2%)、「各企業サイトのインターンシップページ」(34.3%)と続く。前年調査比較と順位に変動はないが、「就職情報会社主催のイベント」が6.7ポイント増加しているのが目立つ。

＜インターンシップを知ったきっかけ＞

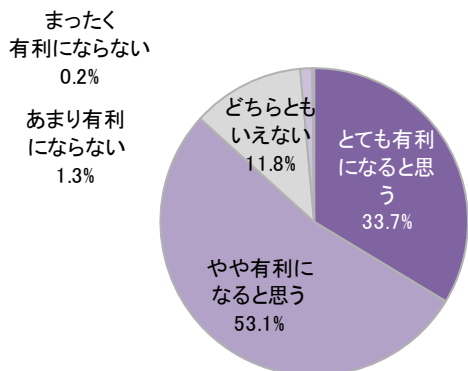


4. インターンシップ参加による影響

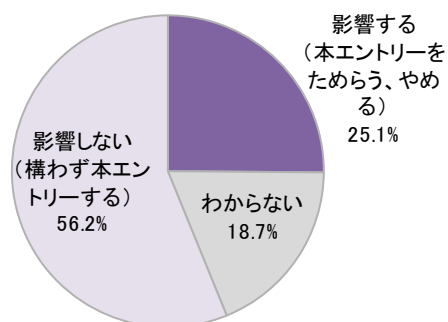
インターンシップ経験が就職活動において有利になると思うかを尋ねた。「とても有利になる」(33.7%)と「やや有利になる」(53.1%)を合わせた8割強(計86.8%)の学生が、有利になるとの見方を示している。早期に業界や企業を知り理解を深めることで適性を確認できるなど、学生がインターンシップに様々な期待を寄せていることがうかがえる。

また、インターンシップの事前選考に落ちた場合、その企業の採用選考への応募(本エントリー)に影響するかどうかを尋ねたところ、「影響する」が25.1%。本エントリーをためらう、やめるという学生は4人に1人という計算だ。

＜インターンシップ参加による就職活動への影響＞



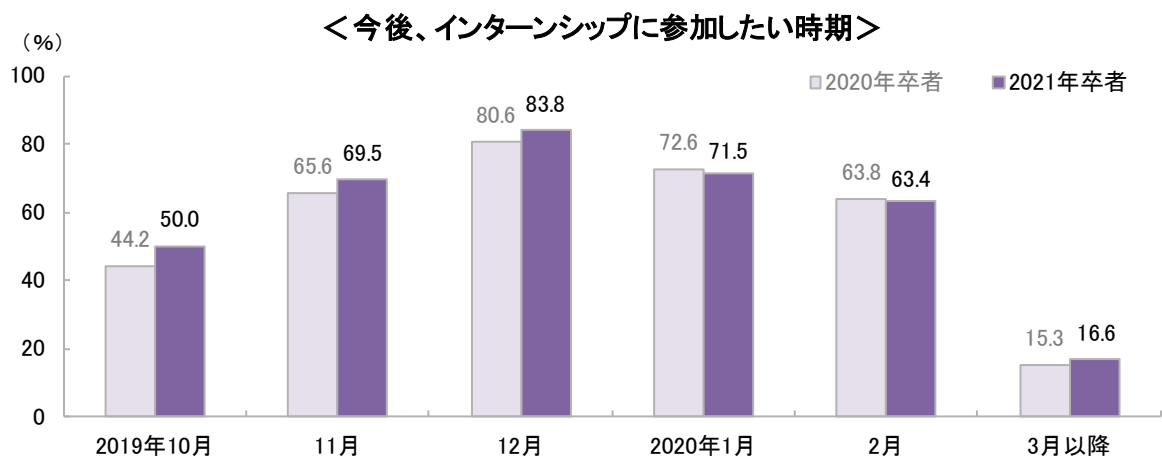
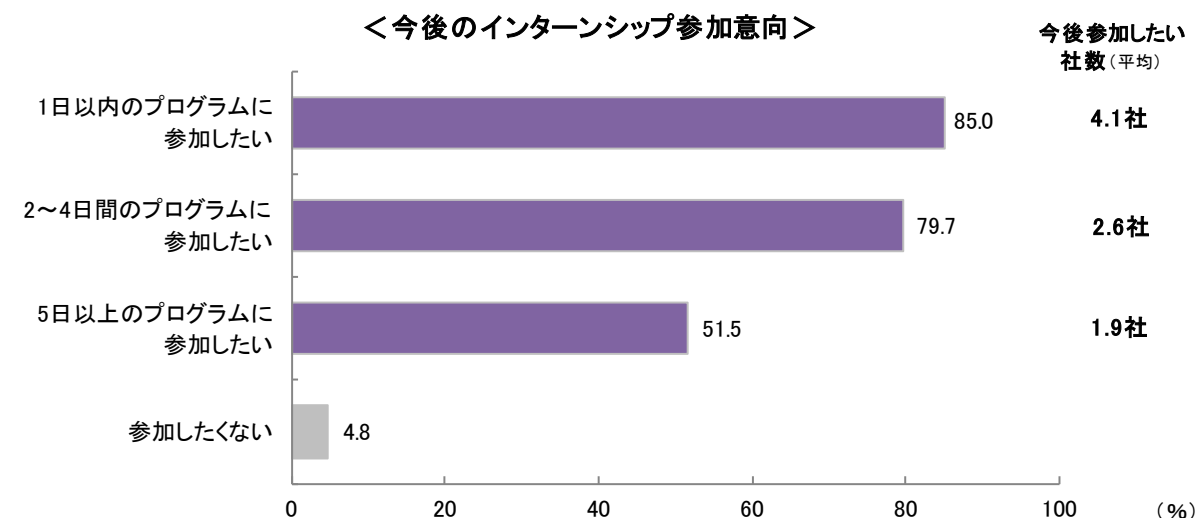
＜インターンシップ選考結果(落選)の採用選考応募への影響＞



5. 今後のインターンシップ参加予定

今後のインターンシップについて、「参加したくない」と回答した学生は4.8%にとどまり、9割強が参加意向を示した(95.2%)。開催日数別で見ると、「1日以内のプログラム」への参加を希望する学生は8割強(85.0%)。「2~4日間のプログラム」も8割近くに上り(79.7%)、開催期間が短いものほど参加意向が強い。ただし「5日以上プログラム」も半数を超えており(51.5%)、様々なタイプのインターンに参加したいと考えている様子が見えてくる。

具体的に参加したい時期を尋ねると、最も多いのは「12月」で約8割(83.8%)。これから募集が始まる冬のインターンシップに意識が向いている学生が多いことが読み取れる。年内に多くの企業や業界を知り、就職活動準備を進めたい学生の意向がうかがえる。



■インターンシップに参加したい理由

- 自分がその業界に適しているかどうかや、自分に足りない部分があるかを知ることができる。 <文系男子>
- 参加することで、その企業に対する理解が深まり、選考の対策を立てやすいのではないかと考えられるからです。 <理系女子>
- 業界や仕事内容だけでなく、働く姿勢や社風を知ることができて、表面だけではわからないことも学ぶことができるから。 <文系男子>
- インターンに参加するのとならないのでは、志望動機や企業分析など自身が話す内容の厚みが違うと思った。 <文系女子>

6. 就活準備イベントへの参加

就職情報会社が主催する就活準備イベント（インターンシップイベント、業界研究イベントなど）への参加状況を見ると、全体の8割強（84.3%）が「参加経験あり」と回答。前年（80.1%）よりも多くの学生が会場に足を運んでいる。一人あたりの平均参加回数は3.5回。

参加が最も多かったのは「6月」で、夏季インターンシップに向けたイベントが多数開催された時期とも重なる。インターンシップ実施企業との出会いを期待して参加する学生が多いのだろうが、企業の話を通じて興味や関心が広がったという学生も少なくないことが、寄せられたコメントから読み取れる。

今後の参加予定回数の平均は3.2回。文理とも男子が女子を上回る。参加を予定している時期は「11月」と「12月」が7割前後が多い。

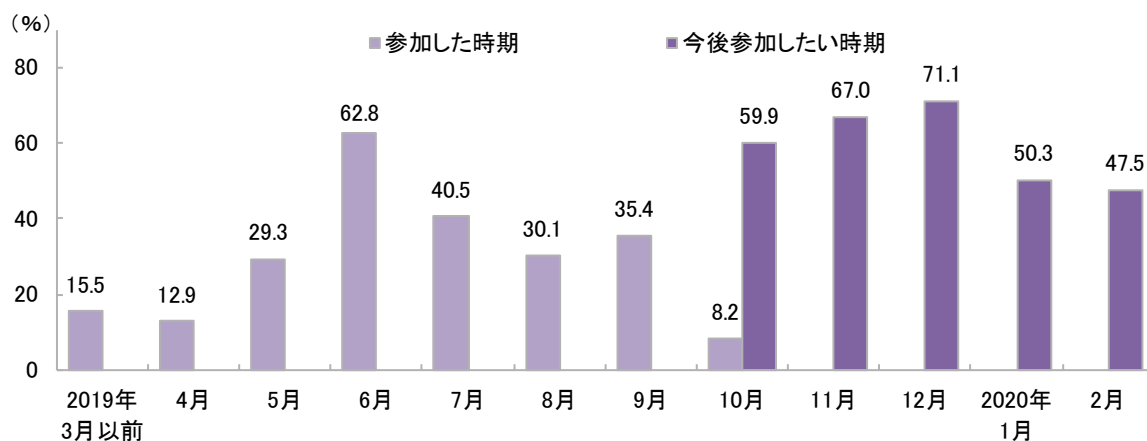
<就活準備イベントへの参加経験>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
参加経験あり	84.3	80.1	88.3	86.4	80.4	75.4
参加経験なし	15.7	19.9	11.7	13.6	19.6	24.6

<就活準備イベントの参加回数>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
これまでの参加回数(平均)	3.5	3.1	4.0	3.3	3.5	2.8
今後の参加予定回数(平均)	3.2	3.3	3.6	3.2	3.1	2.5

<就活準備イベントの参加時期>



■就活準備イベントに参加してよかった点

- インターンシップについて概要を知ることができ、夏期休暇中に参加するインターンシップ先を選ぶ際に役に立った。 <文系男子>
- 色々な企業を気軽に知る機会になり、自分の興味関心が広がった。 <文系女子>
- 面接講座やES講座なども開催されていたので情報を得られてよかった。また、BtoBであるために知らなかったが、実は実力のある企業なども知ることができてよかった。 <理系男子>
- 見ていなかった業界のことを知ることができた点。インターンの情報を知ることができた点。 <文系女子>
- 実際に企業の人事の方と話すことができ、会社の雰囲気を知る契機となった。また、モチベーションを高めることにつながった。 <文系男子>
- たくさんの企業のお話を一度に聞けるため、業界研究や企業研究を行う上で効率が良いと感じた。 <理系女子>

7. 現時点の志望業界

志望業界について尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生が約2割 (19.2%)。「なんとなく決まっている」(48.0%)を合わせると、7割近くに上る (計67.2%)。前年同期調査 (計65.7%)をやや上回り、決定のペースが早まっている様子がわかる。とりわけ理系学生において決定率が高い。

志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらったところ、「情報処理・ソフトウェア」が最も多く (18.2%)、「情報・インターネットサービス」(17.9%)が僅差で続くなど、IT 業界への関心の高さが表れている。

文理や男女などの属性によって志望に違いが見られ、文系男子は「商社 (総合)」と「銀行」が同率 1 位。「調査・コンサルタント」がこれに続く。文系女子の 1 位は「マスコミ」で、2 位に「建設・住宅・不動産」。男子で 1 位の「商社 (総合)」「銀行」は、女子では 3 位と 4 位。

理系を見ると、男子は 1 位「電子・電機」の後に、「情報処理・ソフトウェア」「情報・インターネットサービス」と続き、IT 関連が上位を占める。理系女子は「医薬品・医療関連・化粧品」「水産・食品」が 3 割を超え、ポイントが集中している。

<志望業界の決定状況>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	19.2	19.8	21.8	12.7	24.1	20.5
なんとなく決まっている	48.0	45.9	42.5	46.3	53.5	56.6
決まっていない	32.8	34.3	35.7	41.0	22.4	23.0

<志望業界(上位 15 業界)>

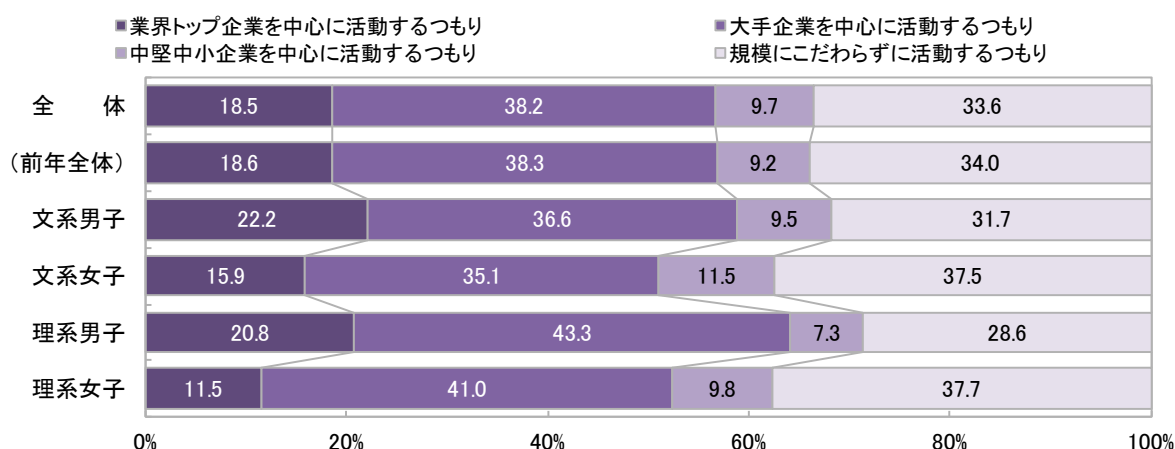
全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 18.2	銀行 22.5	マスコミ 23.5	電子・電機 28.9	医薬品・医療関連・化粧品 35.1
2	情報・インターネットサービス 17.9	商社 (総合) 22.5	建設・住宅・不動産 21.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 25.8	水産・食品 33.0
3	水産・食品 16.3	調査・コンサルタント 19.1	商社 (総合) 18.0	情報・インターネットサービス 24.7	素材・化学 26.6
4	調査・コンサルタント 14.7	情報・インターネットサービス 16.3	銀行 16.5	自動車・輸送用機器 22.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 20.2
5	商社 (総合) 14.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 14.4	ホテル・旅行 16.0	素材・化学 21.6	建設・住宅・不動産 17.0
6	電子・電機 14.0	保険 13.4	水産・食品 15.5	機械・プラントエンジニアリング 17.9	情報・インターネットサービス 17.0
7	素材・化学 13.9	マスコミ 12.4	教育 14.0	水産・食品 17.9	官公庁・団体 14.9
8	医薬品・医療関連・化粧品 13.7	官公庁・団体 11.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 14.0	医薬品・医療関連・化粧品 16.8	マスコミ 11.7
	建設・住宅・不動産 13.7	証券・投信・投資顧問 11.5	調査・コンサルタント 14.0	精密機器・医療用機器 14.2	印刷・パッケージ 8.5
	マスコミ 13.7	建設・住宅・不動産 10.5	情報・インターネットサービス 13.5	調査・コンサルタント 13.7	精密機器・医療用機器 8.5
11	銀行 13.0	運輸・倉庫 10.5	運輸・倉庫 11.5	エネルギー 13.2	調査・コンサルタント 8.5
12	自動車・輸送用機器 11.1	商社 (専門) 10.0	人材紹介・人材派遣 11.5	鉄鋼・非鉄・金属製品 9.5	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 7.4
13	官公庁・団体 11.0	電子・電機 9.6	エネルギー 11.0	官公庁・団体 8.4	自動車・輸送用機器 7.4
14	エネルギー 9.8	教育 9.1	官公庁・団体 11.0	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 8.4	商社 (総合) 7.4
15	機械・プラントエンジニアリング 8.7	自動車・輸送用機器 8.6	保険 9.0	通信関連 8.4	通信関連 7.4
					農業・林業・鉱業 7.4

8. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

就職活動の中心とする企業の規模を尋ねたところ、「業界トップの企業を中心に活動するつもり」18.5%、「大手企業を中心に活動するつもり」38.2%で、いわゆる大手狙いの学生が過半数に上る（計56.7%）。前年調査からほとんど変化は見られない。大学生の就職が売り手市場と呼ばれるようになって数年が経過し、大手志向はすっかり定着した。大手企業はインターンシップ実施率が高く、早期から学生が接点を持ちやすい。今夏インターンシップに参加したことで大手企業を身近に感じ、就職志望度を高めた学生もいるだろう。一方で、「規模にこだわらずに活動」する学生は今年も3割強。

これを文理男女別に見ると、女子は「規模にこだわらずに活動」と答える割合が比較的高い。これに対し、男子は「業界トップ」「大手企業」の割合が女子に比べ高いなど、男女で志向の差が見られる。

<活動の中心とする予定の企業規模>



■「業界トップ企業」を中心に活動する理由

○新卒はスキルよりポテンシャルが買われる魔法のカードだと思うので、業界最大手、最難関を目指したい。

<理系男子>

○トップにしか興味ない。一流のビジネスに関わりたい。

<文系男子>

○トップを狙って活動すれば、仮にあまりうまく行かなくてもそれなりのところに行けると思うから。

<文系女子>

■「大手企業」を中心に活動する理由

○あくまで一般論だが、大手企業の方がさまざまな事業に挑戦するし、福利厚生もしっかりしているため。また、世間体も気にする性格のため名前の通る企業に就職したい。

<文系男子>

○前は中小もいいなと思っていたが、インターンシップに行ってみてやはり福利厚生や収入が全然違うなと思ったから。もし自分が働くなら、大手の方が向いていると思う。

<理系女子>

■「中堅中小企業」を中心に活動する理由

○安定性という点では中堅中小企業は心許ないかもしれないが、若手の内からプロジェクトの中心メンバーとして活躍できる可能性が高い点は魅力的である。

<文系女子>

○地元に着した企業で働きたい。転勤をせずに地元で過ごしていきたい。

<文系男子>

■「規模にこだわらず」活動する理由

○大手だから良いという訳ではないと思うし、色々見てみたいので。

<文系女子>

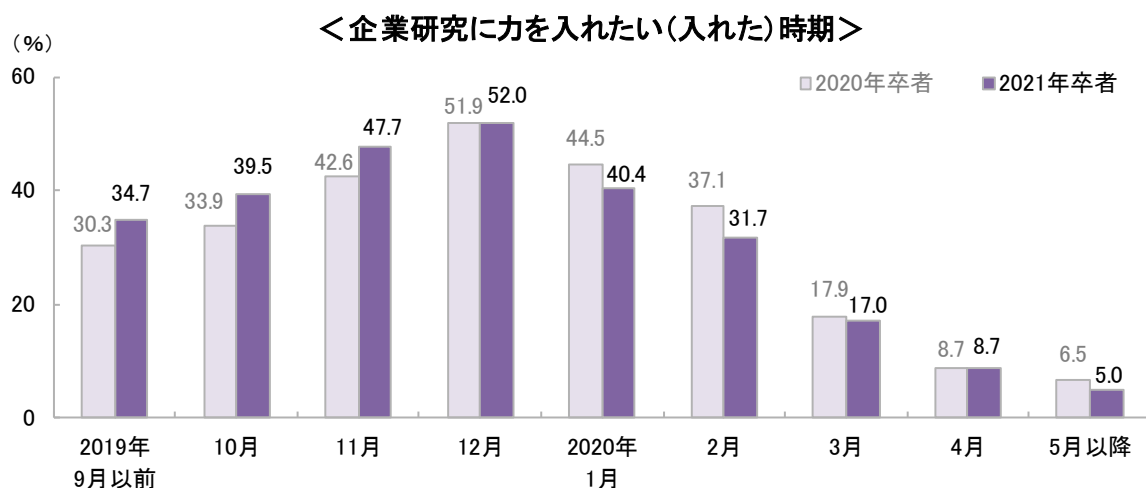
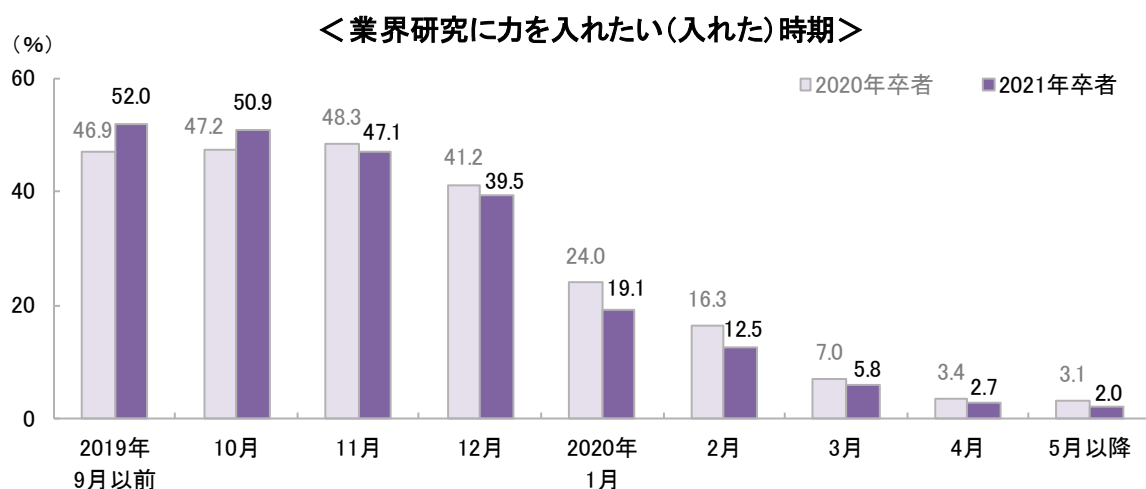
○企業の規模にこだわりはない。中小企業であれば社風や社員と価値観が合うかどうかを重視し、大手であれば自主性や独自性を発揮できる職場かどうかを重視する。

<理系男子>

9. 業界研究・企業研究の予定時期

業界研究と企業研究について、それぞれ力を入れたい時期(入れた時期)を複数回答で尋ねてみた。

まず「業界研究に力を入れたい時期」は「9月以前」が最も多く、夏休みの間に取り組む学生が多かったようだ。「11月」まで5割前後で続くが、「1月」にはポイントが急減し2割を割り込む。一方、「企業研究に力を入れたい時期」は「12月」(52.0%)を頂点に緩やかな山が形成されているが、「3月」には1割台に落ち込む。業界研究は年内に、企業研究は2月までにある程度進めた状態で3月の採用広報解禁を迎えたいと考える学生が今年も多いようだ。ただ、業界研究・企業研究ともに前年調査に比べやや前倒しの傾向が見られ、前年の学生よりも早い時期に志望を固める可能性が高そうだ。



■業界研究・企業研究のプラン（進め方）

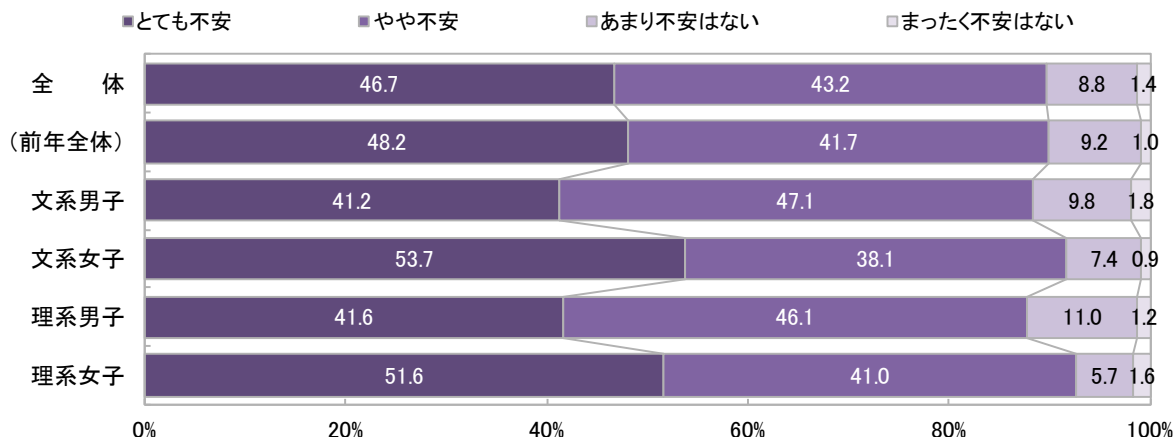
- 本選考が本格的に始まるであろう3月よりも前には、業界・企業研究を完全な状態にしたい。企業のインターンシップや業界研究セミナーに参加して、研究を進めたいです。 <文系男子>
- 夏のインターンで目指したい業界が見つかったので、業界分析は10月、11月にしたい。その後、各業界の主な企業の個別分析をしたい。 <文系女子>
- 就職活動は年々早期化しているため、業界・企業研究はできれば年内までに終わらせたい。年明けからは本選考に向けて、志望企業のみの特化した対策をして、万全の態勢で挑みたい。 <理系男子>
- 企業研究を早めに行っておくことで、残りの時間を自己分析や筆記試験の対策に使いたい。 <理系女子>
- 冬に本格的な選考が始まる可能性があるため、それまでに就活する上で必要な知識を揃えたい。 <文系男子>

10. 就職活動への不安

最後に、自身の就職活動に不安を感じるかどうかを尋ねた。「とても不安」と「やや不安」を足し合わせると、不安を感じている学生は今年も約 9 割に上る (計 89.9%)。女子は文理とも「とても不安」が半数を超え、男子より女子のほうがより不安を感じていることがわかる。

具体的には、企業の動きが不透明な中で乗り遅れないで就活を進められるか、多数の企業の中から自分に合う企業を探せるか、という不安を訴える声が多く見られた。

＜就職活動への不安＞



■具体的に不安に思っていること

- どこかには内定を貰えると思うが、本命に受かる自信がない。 <理系男子>
- インターンに乗り遅れると、どんどん周りとの差がついてしまうのが少し怖い。 <文系男子>
- 魅力的な企業・業界が多く、志望業界を絞りきれない気がしない。 <文系女子>
- オリンピックの影響で、どの企業も選考を早めようとしているのではないかと不安です。 <文系女子>
- 都心での就活を考えているが、地方在住なので行きたいイベントに必ずしも参加できないことも不安。 <理系男子>
- 就職活動と研究室活動の両立ができるか不安。 <理系女子>

■就職活動に関して、今知りたいこと・欲しい情報

- 2021 卒の採用は 2020 卒の採用よりも早まると聞いているが、実際はどうなっていくのか。 <理系男子>
- インターンを通じた早期選考をどのくらいの企業が行っているのか。 <文系男子>
- インターンシップに参加できなかった業界、企業の研究をどのように進めるのがいいのか。 <理系男子>
- 入社後のキャリアパスについて、何を今から考えていけばいいのか分からないので、就活のその先を考えるようなワークを行いたい。 <理系男子>
- あまり知られていないベンチャー企業などを知る機会があれば嬉しいです。 <文系女子>
- 中小企業も受けたいと考えているが、大手よりも情報が少ないため、中小企業についての情報が知りたい。 <文系女子>
- OB・OG 訪問などで生の社員の意見を聞きたい。 <文系男子>
- 実際に働いている人の口コミが一番気になる。説明会などでは良い面しか教えてもらえないので。 <文系女子>
- 各企業の今後力を入れていく事業分野について。 <理系男子>
- 待遇、女性比率、育休産休の取りやすさ、勤務地。 <理系女子>
- 企業が具体的にどのような人材を求めているのか、資格なども含めて知りたいです。 <文系男子>